

●研究目的

本研究では、近時(およそ 20 世紀後半から現在まで)の世界の様々な地域と、様々な分野において社会が直面する課題の様相および概要を、学際的かつ多角的に把握し、それを解決するための諸改革にはどのようなものがあり、それがどの程度進展しているか研究する。そして、それら諸改革の今後の展開と課題として、何が予想され、何が必要となるかの的確に把握し、普遍的な課題とその解決のための知見を探求しようとするものである。

① 研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容等)

20 世紀から 21 世紀の過渡期には、20 世紀の総括として 2 度の世界大戦、その後の新しい世界秩序である冷戦とその終結後のグローバリズムの進展など、急速な展開があった。そして、これらに関する様々な知見が世紀の転換期には集約され、また同時に、21 世紀の展望も総論的に行われた。その後、今世紀に入って約 20 年が経過し、20 世紀における人類の歴史および発展について、さらに総合的・個別的・地域的に、様々な検証が行われ、それとともに、21 世紀初頭のテロリズムの脅威およびそれに影響された地域主義的・排他主義的思想や政策の伸長などが目に付くようになってきた。さらに、アジア地域においては、強力な軍事力と経済力を背景にした、中国のこの地域における急速な台頭や、それに限定されない経済政策の伸長はアフリカ諸国にも及び、今後さらなる注視が必要となっている。また、その他にも、中東イランおよびイラクの情勢は、アメリカその他諸国の頭を、前世紀の冷戦期以上に悩ませているところである。

このような時期において、南山大学地域研究センターの地域横断的研究者による研究遂行が可能であるという環境と特質を生かし、これら諸問題について、どのような問題意識を持って、今後の様々な地域的およびグローバル的な諸課題に取り組むべきか、考察することが急務であると考えた。

そこで本研究では、アメリカ、ヨーロッパ、アジアを対象とする研究者が、20 世紀から 21 世紀の諸問題に、諸国、諸地域、諸機関などが、いかに向き合い、多角的に、解決に向けてどのように取り組んできたのか、その全容を明らかにすることを第1の目的とする。つまり、1 国の制度として捉えられがちな法制度や政治制度も、21 世紀にはその枠を超え、より普遍的な基本的人権、民主主義、多文化主義などの基本主義や原則に基づき、同じ方向に向けて改革が進められ、そのように進展し、多くの場合、発展してきたと言えよう。それら法制度や政治制度とはどのようなもので、どのような改革および発展が見られたのか、様々な分野、視座・観点から検証し、今後の発展につなげていくことが、これからの 21 世紀の趨勢を決定するうえでも重要と思われる。したがって、これら法制

度・政治制度のみならず、それらに関連する諸社会制度の改革と進展も視野に入れ、その分野の研究者を巻き込んでの議論を行うことができる、地域研究センターの重要な特質・特徴、そして、大きな強みを活用して研究することに大きな意義が見いだされよう。

② 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

本研究は上記の趣旨と目的のために、3年計画としての研究計画を、段階的に次のように予定している。つまり、初年度の前半では、研究構想を研究者間で共有すると共に、それぞれの専門分野における諸課題のいずれに焦点を当て、どのように研究し考察するか、具体化すると共に、各自の研究計画を作成し、全体で検討する。それと共に、資料収集その他の基礎的データ収集を行う。その後、後半では、取り扱う諸課題について明確化するために、関係する研究者を招聘しての研究会等を開催し、また資料収集を継続する。次年度前半では、初年度で明確にされた各地域や分野における近時の課題およびその解決のための諸改革の概要等を明らかにし、どのような課題のどの点がどの程度まで解決され、残された課題は何かを明らかにする。そして、後半では、それら残された課題の解決の糸口を探るべく、いかなる研究等が実施され、どの程度まで進展しているのかについて探索し明確にする。そのために、数回の研究会等で情報交換と意見交換を実施すると共に、他大学の研究者等から意見を聞くために招聘を行う。最終年度は、それまでに得られたデータや知見を基に、研究成果として集約するために、さらに意見交換等の研究会等を開催して、まとめしていくための作業を行う。

このように、3年の間に、基本的な諸分野においての20世紀後半から21世紀初頭までの急速な諸科学および諸分野の進展と発展の中から、どのような事柄が特に課題として浮上してきたのか、そして、どのような改革がどの程度まで行われてきたのか、さらなる課題は何かについて、地域的かつ分野的に、多角的かつ横断的に考察することで明らかにし、今後の諸地域および諸分野における進展と発展の基礎を固めることに貢献したい。

③ 当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

これまでも、各地域研究センターにおいて、その点綴された地域における諸課題等を、いくつかの分野ごと、または、時代区分ごとに分析する研究は、共同または個別に行われてきたものと思われる。しかし…

○本研究の学術的な特色・独創的な点は、本学の地域研究センターに属する4センターにおいて、または、それらに関連してこれまでも実施されてきた様々な研究および蓄積された知見と手法を活用し、それぞれの地域における諸課題を分野別または時代別に検討しつつ、それらが単独の

研究領域や時代区分に埋没してしまうことを避けつつ、それぞれの地域に関連する普遍的な、同時代的な諸課題として常に位置付けることを念頭に置きながら、繰り返し研究会等において意見交換を開催することでそれらを見付けながら進展させていく点が、最大の特徴・特徴であり、また獨創性である。

○予想される結果と意義は、上述の共有される研究目的および発想から、地域区分を超えた、グローバルな課題として、誰でもすぐに思いつく事柄として、例えば「地球温暖化」や「テロ対策」などがあるが、そのようなものばかりがグローバルな課題ではなく、法律学の分野では普遍的な基本的人権の問題として、また民主主義的な価値観の共有の問題として、世界的な取り組みがグローバルな視点で進んできたのだが、その中でも、例えば、わが国では先進国の中でも女性の社会での活躍度が低いという国際的な批判があるように、地域的な特色も考えられる。そのような様々な課題は、1つの根源的な、ローカルまたはグローバルな原因に起因するのかもしれない。それらのうち、各研究分担者が、独自の視点またはその分野の観点から、特に重要と考えるいくつかを取り上げつつ、普遍性は何か、また、特殊性は何かを考慮に入れつつ、それに対応する解決策が、果たして見出されて実施されているのか、また、今後の対策の発展と課題解決のためには何が必要かについて、緊密な連携を取りながら見出していく。これらの解決は、そのような作業の積み重ねから発見されてくるものであるから、このような研究を進展させることには大きな意義があると考えられる。

【参考文献】

- ・広田照幸『格差・秩序不安と教育』（世織書房、2009年）
- ・ダロン・アセモグル&ジェイムス・A・ロビンソン、鬼澤忍訳『国家はなぜ衰退するのか 権力・繁栄・貧困の起源（上・下）』（早川書房、2013年）
- ・ジェフリー・サックス、鈴木主税・野中邦子訳『貧困の終焉—2025年までに世界を変える』（早川書房、2014年）

●研究概要

前項の「研究目的」に適合的であり、かつそれを研究期間内に達成するために、本研究では、主たる地域をアジア、北米、西欧に焦点を合わせ、それぞれについて、同時並行的かつ段階的に研究を深化させていく。つまり、地域ごとに年度進行していくのではなく、それぞれについて同様の進捗を確保しつつ確認しながら、考察を深めていく。

より具体的には、2020年度の春学期には、2回ほど、研究代表者および分担者による研究会を開催して、本研究の問題関心と課題の共有を行い、3年間の研究方針と研究計画の確認およびすり合わせを実施する。同年度の秋学期にも調整の付いたところから、2-3回ほどの研究会を実施し、

前項「研究目的」で明らかにした第 1 の点、すなわち、様々な社会の分野において顕在化した課題を共有する。

第 2 年度の 2021 年度春学期には、2020 年度に明確化した課題に関するその後の問題状況、および、それらに対する諸学説・政策等を含む解決への模索について、それぞれの地域ごとに明確化する。そのために 2 回ほどの研究会を研究代表者および分担者で実施し、それぞれの問題意識を含めて、秋学期への見通しと具体的計画を確認する。同年度の秋学期には、2020 年度には開催することができなかった分野・地域の研究に関する研究会や講演会を実施する。

最終年度の春学期には、1-2 回の研究代表者および分担者での研究会を開催し、それまでの研究成果の概要について議論を持ち、最終研究目標である課題解決策の発見または展望と、解決策の普遍性と特殊性を洗い出すことを主たる目標にする。それと同時に、最終的な研究成果としての出版物を作成するための具体的準備作業を始め、執筆者および分担する部分のタイトル、それらの擦り合わせを行うとともに、執筆・校正等の段取り、日程等を確認する。また、同年度の秋学期には、その計画に従って、1-2 回の研究代表者および分担者での研究会を開催し、出版物の全体構成および作業進捗状況その他について確認をしながら、最終出版の段階に入る。

■研究計画・方法

1. 2020 年度(問題意識の共有と、諸課題の明確化)

①春学期:研究班内部での打合せを含む研究会(2回予定)

○研究目的・研究計画の確認と分担の確認:

20 世紀から 21 世紀の諸問題に、諸国、諸地域、諸機関などが、いかに向き合い、多角的に解決に向けて取り組んできたのか全容を明らかにするという第 1 の目標の確認および本研究の問題関心の共有。その洗い出し作業(20 世紀における冷戦とその終結、その後のグローバリズムの進展、および、21 世紀初頭における様々な地域におけるテロリズムの頻発およびその脅威、そして、それに影響された地域主義的・排他主義的思想や政策の伸長などの課題)

○上記を明確化および確認するための外部講師を招いての講演会・研究会等。

②秋学期:研究会・講演会の開催(2-3回予定)

○様々な国際的諸地域および様々な社会分野において顕在化した課題を共有する。

○2020 年度分の中間報告書の作成と出版

2. 2021 年度(地域ごと、分野ごとの課題に対する諸学説・政策等を含む解決の模索の明確化とそれらの現状確認および評価)

①春学期:研究班内部での打合せを含む研究会(2回予定)

○各地域・分野における課題の明確化および考察対象とする諸学説・解決策の明確化

○20 世紀後半の普遍的な価値である、基本的人権、民主主義、多文化主義など基本原則・世界秩序に基づく、世界規模の改革と進展の確認。

○21 世紀初頭の諸地域・基本原則・基本秩序間の軋轢・矛盾の露呈としてのテロリズム、排他主義、一国主義などの急速な進展の問題。

②秋学期:研究会・講演会の開催(2-3回予定)

○様々な国際的地域および様々な社会分野において顕在化した課題につき知見を共有すると同時に、それらに対する課題分析と対策・解決への模索などを明確化する。

○2021 年度分の中間報告書の作成と出版

3. 2022 年度(普遍性および基盤的課題の析出と根源的課題解決策の模索)

春学期および秋学期:研究班内部での打合せを含む研究会(2回予定)

○各地域・分野における諸課題に共通する課題と普遍性の共有、および、基盤的課題の解決要因析出と根源的課題解決策の模索の明確化。

○戦後普遍的価値である、人間の尊厳、基本的人権、民主主義、多文化主義など基本原則・世界秩序に基づく、世界規模の改革と進展、その挫折とその後の状況の全体的確認。

○課題の解決へ向けての模索から、考察対象を絞り込む作業と検討。

○最終的研究成果の作成へ向けて、書籍の出版に関する具体的準備作業:執筆者・分担部分のタイトル、擦り合わせ。出版計画・日程、執筆・校正等の段取りの確認。1-2 回の研究代表者および執筆分担者での打合せを通じて、書籍の全体構成および作業の進捗状況その他につき、適宜確認しながら進行。年度内に最終出版予定。

■今回の研究計画を実施するにあたっての準備状況等

- ①本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
文献研究・シンポジウム・講演会などが中心になるため、研究施設・設備として新たに設置・申請すべきものは特に想定されない。基本的には、個人研究室・教室・図書館等、現状の施設・設備内で実施可能である。

②研究分担者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況

研究代表者および研究分担者はすべて、外・法・国教学部あるいは地域研究センター所属の教員であるため、通常の連絡は学内での会合およびメールでのやりとりなどを通じて可能であり、特に問題は生じない。

③本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

実施するシンポジウム・講演会等はすべて公開とし、1年目および2年目の研究成果は、シンポジウム・講演会等の報告者に寄稿を依頼し、研究代表者・研究分担者で中間報告書として、とりまとめを行う。